〔大正五年十一月二十二日第三種郵便物認可〕
昭和九年六月二十四日　磐城新聞　〔日曜日〕　第四千五百八十八號　〔一〕

夕刊
磐城新聞
六月二十三日發行
〔日曜祭日翌日休刊〕

# 戰爭と歌謠

ダブル、エス生

一

こゝでは歌謠といふ言葉の中に、主として巷にうたはれる小唄、民謠、軍歌の類を含ませて述べたいと思ふ。歌謠は人がものに感じて作り、またうたふ感激の火華であるから、國と國との戰爭、民族と民族との戰爭のやうに、人の感激が高潮に達した場合、そこには當然いろ／＼の歌謠が生れる。

戰爭をうたつた歌謠には太い線で硬い言葉をつらねた軍歌と、細い線で碎けた小唄風のとがあるが、心の緊張といふ點からも硬い軍歌が力強く流行するやうである。しかし、面白いことは日清日露以後こそ漢語澤山の軍歌が主に流行して來たが、それ以前にはむしろ民謠小唄風のものが主であつたことを考へると、死にのぞんで悠揚たる日本人の明るい心持が窺はれるやうに思ふ。

二

原始人の生活は食ふための狩獵即ち鳥や獸をとることゝ、大膽率直な戀愛と、民族との間の戰爭とこの三つにつきてゐる。わが國の上代人の生活を表はした古事記や萬葉集はその意味で優れた文學である

古事記には戰爭の詩もなか／＼多いが、御東征の神倭伊波禮毘古命が忍坂の土蜘蛛を征伐された時の古の久米歌の如きはその代表的なものと言へやう

その一

みつみつし、久米の子等が粟生には、香韮一莖其根が莖其根芽繋ぎて擊ちてし止まむ

その二

みつみつし、久米の子等が、垣下に、植ゑし薑口疼く、われは忘れじ擊ちてし止まむ

その三

神風の、伊勢の海の、大石に、い延ひ廻ろふ細螺の、い廻ひ廻ほり擊ちてし止まむ

等は、皇軍の間に歌はれて士氣を鼓舞したものであり內容も詩形も民謠の始源と見てよいと思ふ

その一の歌は『みつ／＼し久米の勇士等の作つた粟生の中に交つてゐる一本の韮、その根の本も、その芽も皆ひきくるめて、もらさずに擊たなくてはならない。』と、一本の韮をひきぬく心持を以て、敵を擊つ心持を歌つたもの、その二の歌は『みづみづしい久米の勇士等の垣の下に、植ゑた薑は、食べると口ぢうがひりつくやうで、私にも忘れられない。あの忘れられない敵を擊たねばならぬ』と薑の味に比して敵を憎む心を歌つたもの。その三の歌は『神風の伊勢の國の、大きな石に、細螺貝が澤山にくつゝいてゐるやうに、敵をひしひしと取り圍んで、もらさずにうたなくてはならない』と細螺貝の大石に纏りつける狀を以て、敵と戰ふ有樣を形容したのである

## 磐城歌壇

新妻久滿夫選

龍子

○幾山河君越えゆきてはるかにも、西の方なる旅をしぞ想ふ
○西のかた君は今日しも旅ゆきて、ひねもす何を想ひたまふや
○空見ればいとゞ遠きが佗しかり、旅ゆく君を想ふゆゑかと
○いとせめて西の山河しづかなれ、心すさめる君にもあれば

小評　この歌は前に詞書(ことばがき)が無いと稍々意をとり兼ねる。現實の旅かと思へば少々漠然としてゐて、虛空に漂浪する人を想ふ樣な、何うも現實に即してゐない點もあるし、或は幾山河越え離れた西方十萬億土の旅──失禮な解釋かも知れないが──とも觀じられない譯ではない。何れにしても明瞭に表現して欲しいと思ふ。

隨意詠草の外左記題詠を募集する
一、『窓』『季節に因めるもの』
一題二首以內、來月一日締切

## うしほのこゑ

夏淺し　席上互選

夏淺し天幕をもてる種物屋　武門
夏淺し花終りたる櫻草
夏淺しほろをかけたる乳母車
夏淺き厨に魚燒きにけり　香村子
溫室に出來し胡瓜や夏淺き

東郷元帥逝く
夏淺き街をつゝみし訃報かな
夏淺き宵を氣早な白地かな　嶽男
胡瓜漬ほろ苦くして夏淺し
糖漬に野菜の味や夏淺し　文狂
夏淺し新樹の蔭のうすら寒む
夏淺き流れに青き蛇籠かな　芳月
夏淺し網にかゝれる藻草かな　森里
朝顏の蔓立つ鉢や夏淺し　石城

夏淺く夕雲の立つ遠嶺かな　眞砂常
靑梅を頰張る子等や夏淺し　水明
5 初夏や塗替られし貸ボート　枯萍
夏淺し木の間に映ゆる常夜灯　北窓
風靑く見ゆる柳や夏淺き　華岳
道芝の淡き綠や夏淺き　松堂

南風　席上互選

南風吹く橋の袂の四つ手網　武門
7 南風に窓ことぐく明けてあり
大南風一瀞の船みな舫む　松堂
南風に河豚干してある濱廂
ましくらに過ぎし鳥あり南風　嶽男
飛行機の爆音湧けり南風
大雷雨過ぎてすがしき南風かな　晩霞
南風にそとるポプラの若葉かな
南風の窓なぶり居る柳かな　芳月
南風や田每の苗の伸びまさり　眞砂常

## 馬鹿？

鴻以智

混沌たる迷想から來る
人生への懷疑
押潰されそうな
不安の重壓
たまらない人生の
サナトリアムを
詩に求めた馬鹿
誹謗に敗れ
憂欝な顏で
酒を飲む
あゝ　あの歪んだ笑ひ

## 社會の今日

6月24日　△赤松滿祐將軍足利義敎を殺す(嘉吉元)△加藤清正生る(永祿五)△野村、植田その他凱旋の諸將參內、軍狀を奏上す△京都放送局開局△福本大連海關長命令不服從のかどで罷免の旨メーズ總稅務司より發表△[illegible]ヤムに革命起る、立憲君主制確立(昭和七)

6月25日　△皇太后陛下御誕生(明治一七)△佐野學等第二次共產黨事件公判開廷(昭和六)△湘南茅ケ崎に大旋風惹起五十餘戶を破壞す△兵匪鮮內に侵入△大連海關の邦人稅務吏一齊に辭表提出△三分の一軍縮案に我が代表反對表明(同七)

○

寢そびれて夜の夜の過ぎた灯を見つめ　五花村

友がみなわれよりえらく見ゆる日よ、花を買ひ來て妻としたしむ　石川啄木

## 講談　浪人長屋

(121)　日岐武志作　月草道子畫

屋上の狼

この時

いつしか、白子太夫は一匹の咽喉首を食ひ切つたと見え突然

うゝう、うーッ……

と、斷末魔の悲鳴をあげて、どうと倒れた

『おゝ、白子太夫が！』

鐵彌が、古堂の中からお蝶が歎然として聲をあげた

しかし白子太夫は、もうその時はいづれかへ姿を消して居た

友の一匹が倒れたのをみると、彼等の血は憤怒は一時に逆上した

と、見るまに左右から二匹が同時に鐵彌めがけて踴りかゝつた

『あゝッ』

お蝶は我を忘れて叫んだ

『うぬッ』

根棒が電光の如く、月光を切つて左右に唸りを生じて飛んで居た

ぐわんッ

ぐわんッ

腦天を打ち割られて二匹が同時に左右に轉倒した

その時は背後から他の一匹が飛鳥の如く飛びかゝつてゐた

『えいッ』

脇腹の急所を根棒にあてられもんどり打つて、ころがつた

雪を蹴り血が四散する、根棒が唸るときつと、一匹がころりところがるのだ

さすが、美事な一擊である

かうなると、なんでもない

爽快な、月下の狼狩である

お蝶は、手に汗を握つてゐたが鐵彌の美事な武者振りに恍惚とした

大丈夫だとおもつた

白子太夫は更に一匹を倒してゐた

たちまち、狼の數を減じて、餘すところ數匹となつた

狼どもは、ますく暴れ狂ひはじめた

物凄く、吠えつゞける聲が林の夜半の空氣をゆする

橫たはつてる奴が、斷末魔のうなりをあげて喘いでゐるのもある

この時、一匹がいつの間にか古堂の屋根の上にのぼつてゐて鐵彌の背後から襲ふべく隙をねらつてゐた。

鐵彌も、お蝶も全く屋上の狼を感づかないでゐた

うわーッ──猛然として眞正面から飛びかゝつて來た奴を

『えいッ』

眞向から叩きつけ打ち倒したときだ

隙を見出したか、屋上からひらりと、鐵彌めがけてとび下りた

とたんに

どーン

と、どこからともなく轟然たる銃音。屋上から飛び[illegible]りた奴は途中でもんどり打つて鐵彌の傍へ轉落した

彈が胸のあたりを射拔いたらしく、血を噴いてゐた

『あッ、誰だらう』

と、鐵彌が驚きの聲をあげた時

ばん！

と、又銃音がとゞろいた

つゞいて又一發

ばん！餘す二匹の狼は、ころりころりと打ち倒れた

今は一匹も殘らず、屍々累々として凄いばかり

『茂作樣ではないでせうか』

と、お蝶は古堂からやうやく立ち出でながらいつた

『さうかも、知れぬ』

鐵彌は銃音のきこえた方を見てゐた

廣告

麻
ボイル
レース
◉新製品陳列

逸品揃ひの………
パラソル ミ 婦人子供服
㊣ 中野洋品店
◉平二・電五三◉

磐城家庭婦人會
皆樣方の御手不足を補ふ家庭婦人會が出來ました
どうぞ御試用下さいませ。
親切。迅速。
◎會員募集（入會金ト維持費ハ申受マセン）
平町字田町五（元郵便局ウラ）
駒井ヒデ
電話三九九番（呼出）

◙評判で香りのよい
電熱ほうじ茶發賣
一號　一斤六〇　四半斤一五
二號　一斤四〇　四半斤一〇
大勝園　童謠
黑ばしらは家の王
お勝手道具は世帶王
大勝園で買つた茶は
茶の間の王よ客間王
父樣母樣おすきの茶
客のほめる茶喜ぶ茶
平三　大勝園　電九三六番

新車御披露
乘心地のよい三四年式デラックスセダンが入車致しました
貸切の御用命の際は是非電話六八五番へ御試乘の程願ます。
平町貳丁目
三井タクシー
電話六八五番

樂い初夏が訪れました
御家族樣連れの御散策にも急を要する御商用にも
是非尼子タクシーを御願致します。
平二　電六四〇番

產科　午前宅診
婦人科　午後往診
花柳病科　入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

女子店員募集
年齡十七オヨリ廿三オマデ
高等小學卒業程度
御希望の方は履歷書御持參御來談下さい
委細面談
日東商會
平町二丁目　電話四二八番

內臟外科一般
外科花柳病科
（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

東京株式取引所
定期
實物
取引
治　角治商店
電話茅場(66)
(三三七一　三三七二　三三七三)
(三三七二　三三七四　三三七五)
(三四五六　八四　三四六五)
東京市日本橋區兜町一ノ四電略(カ)又ハ(カクヂ)

公社債、株式現物賣買
治　角治株式店
平町本町三丁目七十七銀行隣り大谷時計店裏
電話七三番
株式日報御報進呈
營業案內
主任　山田芳藏

外科專門
X光線科
入院隨意（自炊の便あり）
平南町
上田醫院
病室完備
（電話一二九）

夏の通學服
15日ヨリ
◉小學用霜降小倉服……　.40ヨリ
◉同　上　口…………　.85ヨリ
◉同　特　製…………1.20ヨリ
◉中學用　同……………2.05ヨリ
第二第三制服も二三日中に揃ひます。
ふかや洋服店　平三　電203

耳鼻咽喉科專門
醫學士　鈴木正男
平町田町（電話二一八番）
藤田女學校前

『入院のお需めに應ず』
齒科口腔外科
日本齒科醫學士　鈴木喜政
內郷村高坂磐炭病院前
鈴木醫院

◙內臟外科
◙外科一般
◙花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）
安齊外科醫院

# 怖るべき變態性慾に監視を緩めたが誤り
## 數ケ月前にも少女を淩辱傷害し
## 遂々人を殺した野獸少年

昨報—少女淩辱殺人犯勿來町大日本炭礦長屋居住廿井直勇(一七)假名—は昨年十月十八日湯本町で同樣小娘を邪淫の兇刃に傷け附近から危險視され父竹太郎はこれが爲入山第四坑先山夫から前記炭礦へ移住したものだが、直勇は昨年送檢當時大和醫師及平第一校井上訓導其他により精神鑑定の結果精神喪失性で八才位の低能兒である事判明、中村薰陶園からは園規により收容を拒絶されたので嚴重監視方を說示釋放したので從來附近民から再三其筋に監禁方の陳情あつたものであると

# 平商野球部水戶遠征
## 水商及茨工と對戰

平商校野球部では既報の如く來るべき縣下大會の前哨戰として來る二十四日水戶に遠征、水戶商業及び茨城工業と對戰する、メンバーは左の如し

(投)赤坂　(捕)森　(一)沼田　(二)會澤　(三)森下　(遊)佐々木　(右)高橋　(中)鈴木　(左)日野　(補)西脇

尙兩校では投手としては赤坂一人を有するのみでリリーフを缺くため之が補充に惱んだ結果目下遊擊手佐々木を練習せしめて居るがコントロールには相當の難あるもスピードに見る可きものあり練習如何によつては望をかけ得べく相當注目されて居る、尙ほ大會前更にコーチャーを招聘す可く目下考究中であると

# 平商軍大勝
## 昨日の練習試合

磐中對平商の練習野球試合は昨二十二日午後四時より磐中グラウンドに擧行されたが十三對六で平商大勝、バッテリー平商赤坂森、磐中高羽、小野(六回より上坂投手秋山遊擊となる)

| | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 6 |
| 商 | 0 | 0 | 8 | 2 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 13 |

尙兩校では大會迄に今後一二回の對戰はするらしい

# 平驛構內軟式野球

燦たる優勝旗、優勝盃爭奪の平驛構內軟式野球大會は既報の如く明二十四日平商、第一の兩グラウンドに變更行はれるが二十一日午後二時より機關庫講習室に各主將集合抽籤の結果組合せ左の如く決定

一回 (A)春陽對驛(B)保線區對TK

二回 (A)の勝者對車掌所 (B)の勝者對乘務員

決勝戰は商業庭に於て行はれるが昨年の優勝チーム春陽が優勝候補と目され相當の接戰を豫想されて居る

。。。。。役場對靑年校野球。。。。。今廿三日午後二時から仲間町元自動車學校庭で行つた

# 最高一圓五十九錢
## 漸く最盛季を過ぎた
## 昨日の四倉繭市狀況

出廻りの峠を越した四倉繭市場昨廿二日は白三千八百六十三貫九百八十匁、黃八百二十貫三百四十匁、合計四千六百八十四貫三百二十匁で相場左の如し

| | 高 | 安 | 馴 |
|---|---|---|---|
| 白 | 一五九 | 一四〇 | 一四三 |
| 黃 | 一三三 | 一〇一 | 一二六 |

植田 白九五〇貫 黃一、一〇〇 白高二、三二錢 安二、二〇 馴二、二二 黃高二、三二 安二、〇〇 馴二、一八 掛目 白一九 黃一八

勿來 白七〇〇貫 黃五、七〇〇 白高二、四七錢 安二、一〇 馴二、三六 黃二、三五 一、八〇錢 二、一二 掛目 白一九 黃一八

# 各方面强剛連の參加申込み多數
## 關東北庭球近づく

地方庭球界の豪華版たる關東北第六回大會は今や僅に一週間の目睫に迫つたので晴れの制覇を意氣込む各チーム共目下何れも漸く加はりつた暑熱と鬪つて連日猛練習中であるが、地元各學校、炭鑛をはじめ遠くは

東京鐵道局　鐵道本省
中央大學　仙臺鐵道局
日立

等各方面からの申し込み相次ぎ締切り迄には恐らく六七十組に上るであらうと

# 約七割は婦人
## 第一校の懇話會に現れた
## 母性愛の閃き

平第一校の父兄懇話會に於ける昨、今兩日の出席者は昨一日目約三百二十名、今二日目約二百七十名で例年に比し好成績と喜んでゐるが右出席者の中學年關係を見ると尋常一年はさすが父兄の張り込みが強く總數の三割强を占め、二年と此期に於て愼重敎師〆懇談せねばならぬといふ來春卒業の六年がこれに次いで二割強、殘る四、五年及び高等科は大体各六分强位の出席率であつた、又出席者は幼兒を連れた母が七割、務めの餘暇を利用その他の父が二割强、殘るが兄姉その他であると

# 女敎員總會
## 井上女史の講演に
## 八月はダンス講習

石城郡女敎員會總會は來る三十日平第二校講堂で開かれるが會後女流思想界の第一人者日本女子大學井上秀子女史の女子の修養に關する講演あると、又同會では八月七、八、九の三日間暑中休暇を利用して体育ダンス講習會を開くが講師は斯道に於ける日本での權威者として知られてゐる東京靑山師範敎諭大日本ダンス聯盟會長澁井二夫氏で會費一圓會員外希望の向も家庭の体育のため進んで出席されたいと

# 高麗橋起工
## 廿五日地鎭祭

總工費一萬一千四百圓で平町堀江工業會社の請負に決定した高麗橋は一兩日中鐵柱、玉石、其他材料を取纏め來る廿五日午前十時から靑沼町長其他關係者二十一名を招き地鎭祭を擧行する事になつたが、尙同橋は既報の如く欄干に八個の點燈裝置ある鐵筋コンクリートの頗るモダンなもので來る十月上旬頃までに竣功する豫定であると

# 驚いた超特呑氣
## 恩給を逃がした九名
## 平局の通告に慌て、手續

世智辛い時節柄之はまた超特呑氣な話——恩給法改正により來月受取る分の恩給受給者は二月末日迄に戶籍謄本を提出せねばならなかつたが平局扱ひで之の手續きを怠つた者が九名あつたので右に對し來月拂渡し分を渡さぬ旨其筋から通告あり同局でも吃驚して今二十三日當該關係者九名に對し直接裁 官廳へ至急提出する樣通牒したが直ちに手續きしても受給は二、三ヶ月遲れるであらうとの事である

# 平商天幕隊
## 目下適地を物色

平商校では今夏中希望者によりキャンプ部を設け八月中閼伽井嶽、又は赤井村小川發電所附近、或は適地を相し大体二泊三日のキャンプ生活を行ふべく目下準備中である、同校では昨年も前記小玉川附近で希望者少數の天幕生活を行つた

。。。。。上野原淨水池掃除。。。。。今廿三日午後一時から行つた

# 全員委員となり特別戶數割查定
## 明後廿五日より開始

平町本年度特別戶數割賦課額總額八萬三千九百五圓(昨年より三千三百九十五圓增)を審議する平町會は昨廿二日午後一時から開會、特別委員により查定する賦課額三十圓以上のものを除き例年の如く全員委員となり今明日休み廿五日より左の通り分擔調査する事となつた

(東部)松崎、根本、多田井、馬目(武)、猪狩、荒川(淺)、鈴木 (中部)小野、荻原、關內、小松、坂本、酒井、吉田(五) (西部)堀、川崎、馬目(雅)、吉村、綠川 (北部)會川、花澤、佐々木、新井、佐藤、高橋、吉田(金)

# 新川改修工費五萬圓負擔決議
## 平町南部の水害除去さる

平町南部の水害除去策である新川(新川改修埋立てにより古川を改修)改修工事は關係筋の猛運動が功愈々夏井川改修延長三ヶ年繼續工事として着工する事に縣當局の諒解を得、今年度に於て六萬圓を割當しられ之に關する平町の寄附金に就いては前記町會に於て靑沼町長より內郷、飯野兩村から要求あつた平町の負擔增額其他を說明、今年度一萬圓、明、明後年度各二萬圓の寄附、並に起債を提案し滿場一致可決した

# 平商入賞辯士

一昨二十一日放課後行つた平商の辯論部大會は各辯士何れも相當の出來榮を見せ聽衆を感動せしめたが審査の結果左の五名が入賞明後二十五日夫々賞狀を授與される

一等『苦痛と人生』三乙鹽澤友吉、二—『世界の狀勢を論じて日本靑年に檄す』二甲小澤幸三 三—『不言實行』三甲龜岡進一 四—『嗚呼此の國を如何せん』二乙松島精 五—『國史に還れ』四乙岡田彥太郎

# 數字的に觀た
## 平第一校兒童

平第一校では今回の父兄懇話會に際し學校側の希望を輯錄した小冊子を出席者に配つたが之に抄記した統計によると既往五年間に於ける尋常卒業生の向學狀况左の如く今年度中學入學者は同志願者の八割六分强、同商業は六割弱であつたと

| | 卒業數 | 中學 | 商業 | 高小 | 家事實業 |
|---|---|---|---|---|---|
| 五年 | 二〇七 | 三七 | 三 | 一〇〇 | 一八 |
| 六年 | 一七〇 | 五一 | 一八 | 五八 | 一六 |
| 七年 | 一八二 | 四九 | 二六 | 九二 | 一五 |
| 八年 | 二一四 | 七一 | 二六 | 九五 | 三 |
| 九年 | 一八八 | 六六 | 三四 | 八三 | 五 |

次に同期間の虎眼、齲齒調査成績左の如くで何れも昨年度は比較的優良だつたが今年度は二三年來の好調に反する不成績であつたと

| 虎眼 | 人員 | 罹患者 | 百分比 |
|---|---|---|---|
| 五年 | 一,三六九 | 四二 | 三,〇二 |
| 六年 | 一,四二九 | 五三 | 三,七〇 |
| 七年 | 一,五三三 | 三八 | 二,四八 |
| 八年 | 一,五六二 | 二八 | 一,七九 |
| 九年 | 一,四五〇 | 三八 | 二,六二 |
| (齲齒) | | | |
| 五年 | 一,三八六 | 一,二〇七 | 八七,〇三 |
| 六年 | 一,四四五 | 一,二四四 | 八六,〇九 |
| 七年 | 一,五三三 | 一,三一九 | 八六,〇四 |
| 八年 | 一,五六二 | 一,三一〇 | 八三,〇九 |
| 九年 | 一,四二六 | 一,二三七 | 八六,六三 |

# 盗んだり六十件
## 十八の手長小僧捕はる

去る廿日深夜平町田町三八驛前料理店北村トク方の裏窓より忍び込み二階寢室の箪笥より手提金庫(現金五十錢、書類數點在中)を竊取した犯人を平署で嚴探中昨廿二日松ヶ岡公園を徘徊する擧動不審男あるを引致取調べた結果、此奴は岩手縣膽澤郡水澤町宮下生れ當時住所不定無職遠藤武雄(一八)假名—で取調べの結果長橋の菓子屋外平町で三件、湯本郵便局で時計、萬年筆、現金三圓、外出本十八件、小名濱四十件、合計二百六十餘圓の窃盜を働いて居た事を自白、尙同人は窃盜起訴猶豫二回に及べる年〻似合はぬ手段の巧みな常習であると

# 電話料滯納
## 整理に惱む平局

炭界の幾分活況により地方經濟界は漸次好轉してゐるもの、如くに觀られてゐるが平局の電話料納入成績は依然として不良を續け第一期電話料納期(四月末日)迄の未納者二十五名(昨年二十六名、今年度前期二十三名)四月分通話料十五名、五月分同十四名で何れも昨年と差無くその整理に惱んでゐると

# 勞銀と手當を出せ
## 失業の宇佐美炭鑛坑夫
## 大擧して鑛業主に迫る

赤井村大字赤井宇佐美炭礦工業所は先月中旬來炭層缺乏、一時休山の上新坑道を調査のため去る十五日五月分からの未拂俸給ある從業員七十餘名中約三十名を馘首したが失職者一同は昨廿二日大擧同所長に對し未拂俸給並に解雇手當の支給方を要求するなど不穩の空氣あるので目下平署で警戒中である

# 手附金詐欺
## 五郡を荒した男
## 平署で調べらる

若松市大町漆器店吉野屋方外交員靜岡縣田方郡三島町生れ齋藤政太郎(三九)は昨年十月以降双葉郡大野村下野上鈴木政二より廿圓の手附金を詐取した外本郡を始め双葉、田村、相馬、白河の五郡を跨にかけ約五十名より三百餘圓に上る手附金專門の詐欺を働き昨廿二日富岡署に逮捕され平署より大谷刑事が身柄を引取り目下取調べ中

# 三宅仙遞局長平局視察

三宅仙臺遞信局長は來る二十六、七の兩日中村、於て開催さるゝ縣東部三等局長會議に臨席の序を以て二十五日平局を視察すると

# 仁田川堰修理

大浦村下仁井田方面約八十町步を灌漑する小川江筋仁井田堰(延長二十間)は去る廿日夜五尺餘增水の豪雨に欠潰前記區域の灌漑不可能に陷つたので同組合では高木技師が目下設計を進め近く修理する事になつたと

。。。。。篠山校長發表。。。。。平第一校長篠山廉氏は一昨二十一日放課後の職員會に於て就任半年に當り學校經營、敎授方針に關する研究を發表した

。。。。。平町衞生督勵。。。。。平町の空地、溝渠、水路等には最近頻りに汚物、塵芥等が投棄され不體裁なばかりでなく愈々夏季に入るに從ひ傳染病感染の媒介ともなるので町當局では今廿三日殊に甚しい紺屋町、一丁目、材木町、鍛冶町、搔槌小路の各區に對し注意方を依賴した

。。。。。富安技師滯平。。。。。縣土木課富安技師は平町都市計劃實測のため昨廿二日來平約一週間に亙り同課中潟技手其他と共に原圖調製の準備實測をなすと

。。。。。虎眼豫防補助申請。。。。。平町昨年度トラホーム豫防費は四百四十三圓五十五錢で今二十三日縣に對し百二十九圓六十錢の補助金下附方を申請した

# 投槍
迎歡書投

。。。。。父兄懇話に禮讃。。。。。

◇今回平第一小學校に於て催された父兄懇話會は學校と家庭との連絡を圖る最も有意義な試みとして其間酬はらるゝ處が蓋し絕大なものゝあつた事を衷心感謝する

◇自分は一個の勸め人として無理に作つた寸閑を利用し、辛じて校長先生のお話丈けを聽く事が出來たのであるが其れ以前の授業振りを見たり其後に於ける受持先生のお話しを伺つたりしたら更に一段の收獲があつたらうと思ふ

◇而も單り父たる自分許りで無く、其等の敎授振りなり談話なりを見聞する事は同じ親の立場に在る家內にも其の機會に均霑せしめ度く思つたが留守番の無い關係でそれが出來なかつた事を甚だ遺憾とする

◇是に於てか吾々の希望であるが今後此種の極めて意義のある催しには成るべく多數をして其の機會に有りつかせる意味に於て日曜、祭日を平日と繰り替えて欲しいと思ふ、而して必ずしも二日連續で無く二週、亙つても宜しいと思ふ

◇も一つの希望は之は保護者側に對してゞあるがあの場合なるべく而是の無い子供の同伴を避ける事だ

◇昨日の實例に徵しても校長先生のお話しが漸く熱を帶び來り、滿堂の父兄姉妹がその寸言隻語を聽き洩らすまいと張り込んでる矢先に子供が大聲で泣き出したり、場內を走り廻つたりされては全くお互の迷惑だ

(田町RS生)

。。。。。子持ちを呪むな。。。。。

◇昨日第一校の懇話會にお邪魔して全級兒童の成績品により他のお子供さん達のと較べ、自分の子の缺點を正確に知る事が出來たと同時に校長樣のお話によつて母としての向ふべき途をはつきり御指示を受けた事は何より嬉しく存じます

◇たゞ少しばかり遺憾に思はれたのは乳仔兒が折々泣いたりする每に何處かの若い奥樣が如何にも不愉快そうに舌鼓を打ち乘ねまじく眉の間に深い八の字を刻んで居た事です

◇出る時聞き挾んだ事ですが、校長さんのお話中の母なる人はアノお話しを餘り熱心に聽き入つて子供がヨチ〳〵歩き出したのに氣がつかなかつたとかで大そう他の人に濟まながつて居たそうです

◇斯うした熱心な人が集る事を寧しろ寬容な學校側では歡迎するでせう、而も子持ちは女の原則で子供の無い耳かくしの有閑婦人ばかり集まれと云ふ御希望を持つ方ありとせばそれは決して溫良貞淑な人とは云はれますまい

(城山保守女)

# 電話買ひ度し
姓名在社


# 賣家
新田町中央目拔きの場所
二階六間
階下四間
希望者御來談を乞ふ (姓名在社)


舊五月十三日　日曜　丙寅　大安　成　昴宿　新六月二十四日

路判定斷　東京市本鄕區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神斷

▲一白の人 小資を投じて追々と擴張に努むれば吉なり▲二黑の人 逡巡すること無く全力を注ぎ行へば大吉日▲三碧の人 待つにかひなく失望落膽の餘儀なき凶日▲四綠の人 氣運甚だ面白からず萬事失敗に歸す病注意▲五黃の人 進退去就時宜に應じ上下に臨めば大吉▲六白の人 失敗の經驗は危急に臨みて動ぜず險を免る▲七赤の人 惡運には抗せず觀念して定業を守るべし▲八白の人 運途全盛極力活躍して大功を立つべき吉日▲九紫の人 失財多く容易ならざる日開店建築亦凶

舊五月十四日　月曜　丁卯　赤口　收　張宿　新六月二十五日

▲一白の人 家事は大に整へども外部との交渉に過ありて▲二黑の人 衣食足りて禮節を知ると益德望を高むべし▲三碧の人 何事にも用意周到ならば崩くわいの恐れあり▲四綠の人 土台の緩みを放置すれば大か高樓は危うし▲五黃の人 吉なりとて自惚ざれば災害に見舞はる日▲六白の人 不服を唱へず分を守り他の誘惑に落入るな▲七赤の人 成功は目前に迫る何一奮發して增收を謀れ▲八白の人 氣運益良好にて一家の基礎を築き上ぐべし▲九紫の人 勞多くして功無し定業を勵み安泰を期せよ

二十四日
日出 四、二六　月出後 三、五九
日沒 七、〇〇　月沒前 一、〇七
滿潮 前一、三〇 後四、三〇　干潮 前一〇、〇〇 後一〇、〇五

二十五日
日出 四、二六　月出後 五、一一
日沒 七、〇〇　月沒前 一、五〇
滿潮 前二、二〇 後五、三〇　干潮 前一〇、〇〇 後一〇、二〇


# 常磐銀行湯本支店 新築移轉御案內

先般來湯本町溫泉神社向角ヘ新築中ノ處此程落成致候ニ付本月二十五日ヨリ新館ニ於テ營業可仕候間不相變御愛顧御引立ヲ賜リ度此段御案內申上候

昭和九年六月二十三日

湯本町大字湯本字三函二〇四番地

常磐銀行湯本支店

電話 三九番